

日本社会情報学会通信

Vol.26 No.3 2012.3.1

日本社会情報学会

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17
三鷹ビジネスパーク SOHO プラザ A-301
TEL 0422-40-2062 FAX 0422-40-2062
E-mail: office@jasi.info
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jasi/>
*本学会通信の掲載内容は、HPに掲載

☆ 会 長 挨拶 ☆

【新たな社会情報学の地平を求めて】

日本社会情報学会 会長 廣松 毅

平成 24 年 2 月 28 日に一般社団法人社会情報学会が設立されました。英文名称は The Society for Socio-Informatics (略称 SSI) です。今期の会長の任期中最大の懸案の一つが実現したことを、大変嬉しく思っています。同時に、一般社団法人として新たな学会を設立することに当たってご尽力いただいた役員の方々、また会員の皆様からのご理解とご協力に対して、会長として心から感謝いたします。

すでにご案内しましたとおり、新学会の設立を受けて日本社会情報学会 (JASI) はそちらの方に移行し、3 月 31 日に予定しています会員総会において解散の手続きを取るようになります。会員の皆様のご理解をお願いします。

新学会につきましては、3 月 4 日に設立時社員 2 名による第 1 回社員総会および設立時役員である 22 名の理事による第 1 回理事会が行われ、6 つの常設委員会と 1 つの特設委員会の委員長、さらに全国 7 支部の支部長の選任がなされるとともに、各種規則の原案が承認されました。

これによって、新たな学会の船出の準備ができたこととなります。ただし、これはあくまで準備であって、本当の船出はこれからです。あまりにも不確実性が大きく先が見通せない現状であって、まさに「海図なき航海」の始まりです。現在、新学会の役員は大きな船出をするに当たって決意を新たにするとともに、全力を尽くす覚悟でおります。しかし、この先の航海によってどのような「社会情報学の新たな地平」が開けるのか、またその航海がどのようなものなるのかは、会員の皆様方のご協力如何によります。何とぞ、新学会に対しましても、これまで以上のご協力をいただけますようお願いいたします。

その第一歩がこの 9 月に予定されています 2012 年社会情報学 (SIS) 学会大会であると考えています。会員の皆様方の積極的な参加を期待しています。

最後に、任期中に会員の皆様方からいただきました暖かい励ましとご協力に関しまして心から御礼を申しあげて、日本社会情報学会 (JASI) の最後の会長の挨拶とさせていただきます。

☆ (一社) 社会情報学会 学会大会 研究発表募集について ☆

学術委員会委員長 田中秀幸

新たに発足する(一社)社会情報学会では、2012年社会情報学会(SSI)学会大会を開催することを予定しています。同大会は、日本社会情報学会(JASI&JSIS)の合同研究発表大会の蓄積も踏まえて行われる予定ですが、具体的な内容や詳細については、決まり次第、随時、学会ウェブサイト・メール配信や開催校による大会ウェブサイトなどで案内される予定です。現時点で確認されていることを下記のとおりご案内しますので、ご参照下さい。自由論題やワークショップについても、従来の合同研究発表大会と同様に公募する見込みですので、例年の例を参考にしてご準備いただければ幸いです。

2012年社会情報学会(SSI)学会大会においても、多数の皆様にご発表をいただければと思いますので、ふるってご応募下さい。

記

日時：2012年9月14日(金)、15日(土)、16日(日)

会場：群馬大学(荒牧キャンパス)

大会テーマ：社会情報学と世界- 新たな共有と創造に向けて-

発表申込および論文集原稿締切：2011年6月中旬の予定

※発表申込と原稿締切の日付が同じの予定です。一昨年までのように分かれていませんので、ご注意下さい。

詳細ご案内予定

- * 決定次第、(一社)社会情報学会・学会ホームページへの掲載、メール配信によってご案内の予定です。(本件に関する問合せ(2012年3月下旬まで)、日本社会情報学会学会(JASI)事務局 TEL 0422-40-2062/Mail office@jasi.info)

☆ 統合に向けた合同委員会報告 ☆

【第3回統合に向けた合同委員会】

日時 2011年6月25日(土) 18:00-20:50

会場 早稲田大学楠亭

出席 伊藤、廣松、太田、遠藤、(議事録作成:今田、和泉)

議題

1. 前回議事録の承認
2. 部会議事録
3. スケジュール
4. その他

第2回「統合に向けた合同委員会」審議事項

- 1 以下の点を確認した。統合に向けて、来年の2012年4月に新学会発足ができるように両学会共努力する。
- 2 現在、各部会で審議していた内容を、7月20日前後までに「中間報告」の形で取りまとめて、7月中には2つの学会の会員に、すべての部会の「中間報告」を公開して、意見聴取を行う。
- 3 以下の内容で各部会に審議内容を委託する。

・研究活動部会

- ① JAS Iの支部がこれまで果たしてきた役割を重視して、統合の後も、この支部活動を継続し、支部単位の活動や研究会が開催できるように具体的なプランを作成されたい。その際、全国をカバーできるような支部組織を設置することが望ましい。
- ② 研究活動にかかわる機構として、上記の支部組織以外に、テーマ別に研究会を組織する「研究委員会」(仮称)など、2つの学会のこれまでの研究活動を活かしながら、複数の機構を構築することを検討されたい。

・学会誌発行部会

- ① 2012年4月に新学会が創設されることを念頭に、スムーズに新学会誌が発行できるように万全の準備をはかっていただきたい。投稿基準、投稿時期、審査体制など。
- ② 現在の「学会誌発行部会」を「学会誌発行・移行部会」として、移行期の編集作業をおこなう責任と権限を付与し、上記の課題を担うための体制を検討されたい。

・渉外部会

- ① 法務・財務委員会では、会員の種別を「正会員」「学生会員」「賛助会員」「名誉会員」の4種類にすることを提案している。その内容と、渉外部会のこれまでの検討結果との間には、相違がある。また、「団体会員」には選挙権・被選挙権を与えることはできないと考える。以上の諸点をふまえ、再度、企業や自治体との関係をより緊密にするための方法をプランニングしていただきたい。
- ② 2012年4月に新学会が創設されることを念頭に、2011年秋または2012年にかけて「企業」「自治体」「学会」をネットワークするワークショップや研究会を開催できないか検討されたい。また企業や自治体にアンケートを取るなどのプランも検討されたい。

次回、統合のための合同委員会は、部会委員長・副委員長との合同開催。

7月23日(土) 18:00 会場は東京大学情報学環本館6階実験室

【第4回統合に向けた同委員会】

日時 2011年8月26日(金) 15:00-16:40

会場 早稲田大学14号館508

出席 伊藤、今田、遠藤、太田、北村、桜井、田中、服部、廣松、和泉

議題

5. 前回議事録の承認
6. 中間報告
7. スケジュール
8. その他

議事概要

1. 前回議事録の承認
2. 廣松委員より、公開された中間報告についての会員からの意見、概要が報告された。定款についての意見は、法務・財務部会において協議。
会員種別について、法務・財務部会と渉外担当部会において、合同開催することとした。
太田委員より、表彰部会中間報告の追加資料および説明があった。
3. 資料に基づき、今後のスケジュールを協議。
各部会における最終報告は10月末
会議予定は以下のとおり。
○統合に向けた合同委員会
第5回9月11日、第6回10月下旬、第7回1月上旬、第8回2月下旬
○両学会理事懇談会
10月下旬
○JSIS
理事会12月上旬、3月上旬
○JASI
理事会12月上旬、3月上旬
会員総会 1月上旬、3月下旬
4. 社会情報学会設立におけるキックオフイベントを企画するワーキンググループを設立することとした。11月科研応募に向け、各学会3名ずつ担当者を選出する。
5. 廣松委員から、第1回社会情報学会の全国大会開催校として、群馬大学の推薦があり、それを承認した。
次回は9月11日(日)静岡大学。

【第5回統合に向けた合同委員会】

日時 2011年9月11日(日) 13:40-14:00

会場 静岡大学浜松キャンパス情13教室

出席者 11名

伊藤、遠藤、太田、五藤、北村、桜井、田中、廣松、福田、安田、和泉

議題

9. 前回議事録の承認
10. 中間報告
11. スケジュール

12. その他

議事概要

1. 前回議事録の承認

2. 両学会会員総会の報告があった。

JSIS 伊藤会長より、定款案をホームページに掲載することと、国際交流委員会設立が提案され、それを承認した。

移行作業部会中間報告書に基づき、10月末までに、最終報告案を作成することとした。

(一社)社会情報学会規程についての担当者選出は両学会長の一任とする。

次回は未定

【第6回統合に向けた合同委員会】

日時 2011年11月6日(日) 16:00-18:00

会場 中央大学駿河台記念館 510 会議室

出席 14名 伊藤(賢)、伊藤(守)、今田、遠藤、太田、北村、黒須、五藤、桜井、田中、廣松、福田、正村、和泉

議題

1. 前回議事録の承認

2. 最終報告案

3. スケジュール

4. その他

議事概要

1. 前回議事録の承認

2. 資料に基づき、定款案について審議を行った。団体会員の選挙権、JASI の特別会員について検討の結果、選挙権については付与する方向で再度、法務・財務部会で検討する。特別会員については、参与を置くことが出来ることで検討を行う。

3. 資料に基づき、田中研究部会委員長より、最終報告の説明があった。

4. 各委員会規程作成にともない、親規則となる委員会規程を法務・財務部会から提示することとした。

5. 資料に基づき、パブリックコメントが紹介された。該当となる部会および設立後の委員会で検討を行う。

6. 今後のスケジュールについては、12月17日両学会理事会にてそれぞれ確認を行う。

次回は1月6日早稲田大学

【第7回統合に向けた合同委員会】

日時 2012年1月6日(金) 16:00-17:45

会場 早稲田大学 16号館 511

出席者 伊藤、今田、遠藤、北村、木村、黒葛、柴田、廣松、福田、和泉

議題

1. 前回議事録の承認

2. 最終報告案

3. スケジュール

4. その他

議事概要

1. 前回議事録の承認

2. 伊藤委員より、定款附則の設立時代代表理事、会長、副会長の選出方法が提起され、協議の結果、次の手順で行うこととした。
 - ① 理事候補者を両学会より 11 名ずつ選出（会長一任）
 - ② 1 月 15 日理事候補者を確定し、移行作業専門部会が選挙管理委員会となり、会長選挙を公示。副会長 2 名の選出については、会長選挙次点者ともう 1 名は会長指名とする。
 - ③ 1 月 31 日選挙終了
 - ④ 2 月 9 日統合に向けた合同委員会へ報告
3. 配布資料に基づき、スケジュールについては協議の結果、以下のとおりとした。
詳細は別紙資料を参照
2 月 10 日 公証人定款事前提出（含附則）
2 月 20 日 公証人定款提出
2 月 27 日 法務局登記
4. 配布資料に基づき、黒葛委員より定款案、役員候補者選出規則、評議員選挙規則の修正箇所について説明があり、それを承認した。
公開に際しては、両学会長のコメントを掲載する。
パブリックコメント締切は、1 月末日。
ともない、規程、規則等についても次回協議後、案を公開することとした。
5. 配布資料に基づき、遠藤委員より、学会誌規則について説明があった。
投稿の手続きについては JASI の現行手続き、電子ジャーナルについては J-STAGE と CiNii との比較等々の意見交換があった。
6. 配布資料に基づき、廣松委員より第 2 回表彰部会議事録案について説明があった。
次回は 2 月 9 日 14:00 早稲田大学 従来のメンバーに加え、法務・法務部会、移行作業専門部会との合同会議とし、選挙結果、規則・規程等について審議を行う。
次々回は最終回、3 月 4 日（日）早稲田大学 第 1 回 SSI 理事会との合同会議において引継を行う。

【第 8 回統合に向けた合同委員会】

（各部会委員長・副委員長、移行作業専門部会、法務・財務部会）

日 時 2012 年 2 月 9 日（木）14:00-18:00
会 場 全国町村議員会館 7 階 特別会議室
出席者 9 名 伊藤、今田、遠藤、黒葛、五藤、田中、廣松、藤井、和泉
議 題 選挙結果
規程・規則
その他

議事概要

1. 前回議事録の承認
2. 廣松委員より、社会情報学会設立理事（会長）および副会長選挙について報告があった。
会長は伊藤委員、副会長は廣松委員、遠藤委員が選出されたことが報告された。
3. パブリックコメントは JSIS から 1 件、JASI はなし。回答について協議した。
4. 配布資料に基づき、黒葛委員より最終案の定款について説明があった。
5. 配布資料に基づき、黒葛委員より役員候補者選出規則、評議員選挙規則について説明があった。

6. 配布資料に基づき、黒葛委員より会員規則について説明があった。2 月末締切のパブリックコメント対象とする。大学院博士課程については、前期課程、後期課程と記述する。
 7. 配布資料に基づき、黒葛委員より会費規則について説明があった。2 月末締切のパブリックコメント対象とする。賛助会員の年会費は 30,000 円とすることとした。
 8. 配布資料に基づき、今田委員より両学会の会員の移行について説明があった。2 月末締切のパブリックコメント対象とする。SSI へ JSIS 会費の繰り入れ%についてはペンディング。両学会ともに入会している会員について協議の結果、どちらかが完納であれば、SSI へ移行することとした。
 9. 委員会規則については、細則と整合性の修正後、2 月末締切のパブリックコメント対象とする。
 10. 研究活動委員会運営細則について、田中委員より説明があった。大会運営内規について、意見交換があった。支部補助金は年間 5 万円とし、未使用、残金は返金。
 11. 配布資料に基づき、今田委員より理事会規則について説明があった。
 12. 配布資料に基づき、黒葛委員より旅費規程について説明があった。
- 次回、最終回は 3 月 4 日（日）13:00 東京大学本郷キャンパス、SSI 第 1 回理事会との合同で継続審議事項等、引き継ぎを行う。

【第 9 回統合に向けた合同委員会】

日 時 平成 24 年 2 月 17 日（金）17:00-18:30

会 場 東京大学駒場キャンパス 14 号館 7 階 706 演習室

出席者 14 名 今井、遠藤、太田、岡田、木村、五藤、桜井、田中、寺野、富山、平林、廣松、山本、和泉

議 事

1. 各委員会報告
2. 大会報告
3. 新会員の入会承認・退会承認
4. 統合に関する事項
5. その他学会運営に関する事項

議事内容

1. 前回議事録の承認。
2. 配布資料に基づき、廣松会長より、会員内訳について報告があった。2011 年度会費未納者は 14 名。
会員総会成立については、238 名の出席および委任状には、あと 100 通必要。
そのため、既に依頼済の支部につづき、推薦人についてもとりまとめを依頼することとした。総会成立の場合は、即日解散し、整理団体とすることとした。
3. 配布資料に基づき、会費 2 年未納者 11 名の除名を承認した。
4. 配布資料に基づき、木村企画委員長より企画委員会報告があった。
5. 配布資料に基づき、山本学術委員長補佐より学術委員会と次回大会について報告があった。全国大会のテーマについて、「社会情報学を世界」—新たな共有と創造に向けて—を承認した。
6. 廣松会長より、一般社団法人社会情報学会における国際委員会委員について、寺野理事、岡田理事の推薦があり、それを承認した。
7. 資料に基づき、廣松会長より 20011 年大会会計報告があった。

参加者 314 名、55,075 円の還元金。

8. 資料に基づき、一般社団法人社会情報学会定款案を確認した。

以上

☆ 理事会報告 ☆

【第3回理事会報告】

日時 平成23年7月23日（土）13:00-14:40

会場 東京大学 情報学環本館2階教室

出席者 14名 安藤、太田、尾関、木村、後藤、桜井、佐藤、島田、田中、福田、廣松、前田、山本、和泉

議事

1. 各委員会報告
2. 新会員の入会承認・退会承認
3. 合同研究発表大会
4. 統合に関する事項
5. その他学会運営に関する事項

議事概要

1. 前回議事録の承認
2. 資料に基づき、入会4名を承認した。
3. 資料に基づき、五藤理事より、総務委員会報告があった。
4. 資料に基づき、木村理事より、企画委員会報告があった。
5. 田中理事より、合同研究発表大会について報告があった。
6. 島田理事より、表彰委員会報告の本年度学会賞受賞者を承認した。
7. 資料に基づき、廣松会長より、統合のための合同委員会報告がああった。
各部会担当者より、中間報告案があった。
法務・財務部会、定款案において、評議員定数と渉外担当部会の会員種別等について意見交換があった。
8. 事務局のNPO法人iコミュニティ（理事長和泉恵子）より、日本社会情報学会（JSIS）と日本社会情報学会（JASI）の所在地を（三鷹市上連雀1-12-17 三鷹ビジネスパークSOHOプラザA-301）とすることを提案があり、それを承認した。
事務所および会計等の契約については和泉を代表者とし、事務所契約の保証人は現会長の廣松毅とすることを承認した。

次回理事会は9月11日（日）12:10 静岡大学

【第4回理事会報告】

日時 平成23年9月11日（日）12:10-13:00

会場 静岡大学浜松キャンパス 情11教室

出席者 17名 安藤、太田、岡田、河又、五藤、桜井、佐藤、島田、田中、寺野、遠山、富山、新川、廣松、福田、前田、和泉

議事

1. 各委員会報告
2. 新会員の入会承認・退会承認
3. 統合に関する事項
4. その他学会運営に関する事項

議事概要

1. 前回議事録の承認
2. 入会、退会の承認
3. 配布資料に基づき、田中理事より、若手交流会における参加費一人当たり1,000円の学

会負担の提案があり、それを承認した。

4. 10月13日第64回情報政策研究（ドコモ本社ビル）、12月5日第65回情報政策研究会（電気通信大学）の案内があった。
5. 配布資料に基づき、島田理事より表彰委員会報告があった。
6. 廣松会長より、統合に向けた合同委員会の中間報告および進捗について報告があった。次回は未定

【第5回理事会報告】

日 時 平成23年12月17日（土）13:00-15:00

会 場 東京大学工学部2号館9階92B

出席者 11名 太田、木村、五藤、桜井、田中、富山、平野、廣松、福田、山本、和泉

議 事

1. 各委員会報告
2. 新会員の入会承認・退会承認
3. 統合に関する事項
4. その他学会運営に関する事項

議事内容

1. 前回議事録の承認
2. 回覧資料に基づき、入会会員1名、退会会員5名を承認した。
3. 配布資料に基づき、廣松会長より会員内訳、本日までの収支報告があった。
4. 配布資料に基づき、木村企画委員長より報告があった。
5. 配布資料に基づき、田中学術委員長より報告があった。
全国大会についての日程を承認した。
大会発表公募は現会長を発信者とし、HPおよび3月の学会通信で告知する。
7. 配布資料に基づき、一般社団法人社会情報学会定款案について、次の修正依頼をすることとした。第四条一項 学会大会、シンポジウム、講演会並びに研究会等の開催
現行 研究発表大会、シンポジウム、講演会並びに討論会等の開催
修正案 学会大会、シンポジウム、講演会並びに研究会等の開催
附則第三条について、JASI院生は正会員の減額会員となっており、学生会員への移行については考慮が必要。ともない、新学会では社会人院生について、会員種別の意思決定は申請者、学会のどちらにあるか、学生会員承認基準の明確にする必要性が問われた。
7. 解散の会員総会は3月31日（土）とする。
8. 太田理事より、表彰部会の報告があった。
新進研究賞（秋山賞）および秋山基金についての議論は継続協議。

次回は未定。

【第6回理事会報告】

日 時 平成24年2月17日（金）17:00-18:30

会 場 東京大学駒場キャンパス 14号館7階706演習室

出席者 14名 今井、遠藤、太田、岡田、木村、五藤、桜井、田中、寺野、富山、平林、廣松、山本、和泉

議 事

1. 各委員会報告
2. 大会報告
3. 新会員の入会承認・退会承認
4. 統合に関する事項
5. その他学会運営に関する事項

議事内容

1. 前回議事録の承認。
2. 配布資料に基づき、廣松会長より、会員内訳について報告があった。
2011年度会費未納者は14名。

会員総会成立については、238名の出席および委任状には、あと100通必要。

そのため、既に依頼済の支部につづき、推薦人についてもとりまとめを依頼することとした。総会成立の場合は、即日解散し、整理団体とすることとした。

3. 配布資料に基づき、会費2年未納者11名の除名を承認した。
4. 配布資料に基づき、木村企画委員長より企画委員会報告があった。
5. 配布資料に基づき、山本学術委員長補佐より学術委員会と次回大会について報告があった。全国大会のテーマについて、「社会情報学を世界」—新たな共有と創造に向けて—を承認した。
6. 廣松会長より、一般社団法人社会情報学会における国際委員会委員について、寺野理事、岡田理事の推薦があり、それを承認した。
7. 資料に基づき、廣松会長より20011年大会会計報告があった。
参加者314名、55,075円の還元金。
8. 資料に基づき、一般社団法人社会情報学会定款案を確認した。

以上

☆ 研究会報告 ☆

[第 130 回定例研究会]

日 時 11 月 29 日 (火)
会 場 東京麻布台セミナーハウス
テーマ ソーシャルサービスの健全性維持の取り組み
講 師 井上真由美 (株ミクシィ)
金子 哲宏 (株ディー・エヌ・エー)

[第 131 回定例研究会]

日 時 12 月 17 日 (土)
会 場 東京大学駒場キャンパス
テーマ 地域イノベーションの創出についての実態と課題
ーわが国とベトナムの地方都市を事例としてー
講 師 藤井 亨 (株日立製作所)
税所哲郎 (群馬大学)

[第 132 回定例研究会] 第 18 回社会情報システム学シンポジウム 予定

日 時 1 月 26 日 (木)
会 場 電気通信大学
テーマ 社会シミュレーション

[第 133 回定例研究会] 予定

日 時 3 月 10 日 (土)
会 場 東京大学駒場キャンパス
テーマ デジタルネイティブを対象とした定性・定量融合法アプローチの展開
講 師 木村忠正 (東京大学) 藤原正弘 (KDDI 総研)

[第 64 回情報政策研究会]

日 時 10 月 13 日 (木)
会 場 (株NTT ドコモ本社
テーマ 東日本大地震におけるNTT ドコモの取り組み
講 師 入江 恵 (株NTT ドコモ)

[第 65 回情報政策研究会・情報交流会]

日 時 12 月 5 日 (月)
会 場 電気通信大学
テーマ 新しい地震予知システムについて～電磁気手法を用いた地震予知～
講 師 早川正士 (電気通信大学)

☆ 委員会報告 ☆

[学術委員会]

●第2回学術委員会

日時 平成23年7月23日(土) 10:00~10:30

会場 東京大学情報学環本館6階実験室

出席者 安藤明之(東経大)、太田敏澄(電通大)、五藤寿樹(日本橋学館大)、
島田達巳(情報セキュリティ大学院大)、田中秀幸(東大)、野田哲夫(島根大)、
福田豊(電通大)、山本佳世子(電通大) [敬称略]

議事

1. 平成23年度第1回学術委員会議事録案
2. 平成23年度の全国大会
3. 23年度大学院生研究発表大会
4. その他(

第4回横幹連合コンファレンス

・次回の学術委員会は、

東京大学本郷キャンパス・大学院情報学環6階実験室で、10月6日(土) 18:00~

●第3回学術委員会

日時 平成23年10月6日(木) 18:00~18:30

会場 東京大学情報学環本館6階実験室

出席者 遠藤薫(学習院大)、五藤寿樹(日本橋学館大)、桜井成一郎(明治学院大)、
田中秀幸(東大)、山本佳世子(電通大) [敬称略]

議事

1. 平成23年度第2回学術委員会議事録案
2. 平成24年度の全国大会
3. 平成23年度大学院生研究発表大会
4. 統合に向けた研究活動部会報告

・次回の学術委員会は、

東京大学本郷キャンパス・大学院情報学環6階実験室で、12月7日(水) 17:00~

●第4回学術委員会

日時 平成23年12月17日(土) 15:00~15:30

会場 東京大学情報学環本館6階実験室

出席者 岩井淳(群馬大)、太田敏澄(電通大)、五藤寿樹(日本橋学館大)、
佐藤哲也(静岡大)、桜井成一郎(明治学院大)、田中秀幸(東大)、
富山慶典(群馬大)、中井豊(芝浦工大)、廣松毅(情報セキュリティ大)、
福田豊(電通大)、山本佳世子(電通大) [敬称略]

議事

1. 平成23年度第3回学術委員会議事録案
2. 平成24年度の全国大会
3. 平成23年度大学院生研究発表大会
4. 統合に向けた研究活動部会報告
5. 電気情報通信学会「通信行動工学研究会」との定例研究会との「併催」について

・次回の学術委員会は、

東京大学本郷キャンパス・大学院情報学環6階実験室で、1月21日(土) 13:00~

●第5回学術委員会

日 時 平成24年1月21日(土) 13:00~15:30

会 場 明治学院大学白金キャンパス本館8階81会議室

出席者 岩井淳(群馬大)、遠藤薫(学習院大)、岡田勇(創価大)、
五藤寿樹(日本橋学館大)、佐藤哲也(静岡大)、桜井成一郎(明治学院大)、
田中秀幸(東大)、山本佳世子(電通大) [敬称略]

議 事

1. 平成23年度第4回学術委員会議事録案
 2. 平成24年度の全国大会
 3. 平成23年度大学院生研究発表大会
 4. 統合に向けた研究活動部会報告
 5. 「横幹連合会員学会の震災克服調査研究の連携による強靱な社会の再構築に向けた横断型基幹科学技術の展開」への参画について
 6. 研究部会
- ・次回の学術委員会は、中央大学で、2012年3月31日(土) 12:00~(予定)

【表彰委員会】

●第2回表彰委員会

日 時 2011年7月23日(土) 11:40~12:05

場 所 東京大学情報学環本館6階実験室

出席者 有馬、太田、五藤、島田

議題

1. 社会システム貢献賞
2. 文献論文関連賞
 - (1) 優秀文献賞候補者
 - (2) 優秀論文賞・論文奨励賞
 - (3) 大学院学位論文賞博士論文
 - (4) 大学院学位論文賞修士論文
 - (5) 秋山賞

☆ 第13回研究発表賞受賞者報告 ☆

＜日本社会情報学会(JSIS&JASI)合同研究発表大会研究発表＞

選考委員会委員長 島田 達巳
(学術委員会/表彰委員会)

23年9月9日-12日に行われた日本社会情報学会(JSIS&JASI)合同研究発表大会での一般研究報告のなかから、座長およびコメンテータの評価と大会参加者の投票にもとづき、下記に対して日本社会情報学会大会研究発表賞を授与することとし、理事会の承認を得ました。

その結果をご報告いたしますとともに、その栄誉をたたえ、研究発表論題をここに掲載いたします。

受賞者の方々には、次回社会情報学会研究発表大会におきまして、会長より賞状を授与いたします。

(敬称略)

☆ 発表表題	「モバイルサービスにおけるネットワーク効果とエコシステム —韓国モバイルインターネット活性化政策を事例に—」
発表者	趙章恩(東京大学大学院)
☆ 発表表題	「ICTによる高齢者孤立化防止の試み —モデル構築と社会実験について—」
発表者	森やす子(お茶の水女子大学)

*受賞者の発表要旨は、「日本社会情報学会(JSIS&JASI)合同研究発表大会研究発表論文集」に掲載。

☆ 日本社会情報学会 (JSIS&JASI) 合同研究発表大会報告 ☆

実行委員会委員
田中秀幸 (東京大学)

平成23年9月9～12日に開催された大会は、盛況のうちに幕を閉じました。基調講演および討論、一般研究報告、JASI・JSIS合同ワークショップ、ワークショップ、公開ワークショップが3日に渡り開催されました。これもひとえに会員皆様の熱意の表れと存じ、深く感謝いたします。また、本大会にご協賛戴きました団体の方々に心より御礼申し上げます。

開催概要

2011 年日本社会情報学会(JSIS & JASI)合同研究大会(静岡大学共催)

プログラム

大会テーマ:「地域社会の情報ネットワークとガバナンス」

9月9日(金) 会場:「静岡大学情報学部 2号館情13教室」、「静岡大学高柳記念館ホール」、「掛川市竹の丸」

10:00~12:00	WS5「参加を実感できるまちづくり:オープンな情報共有と地域ガバナンス」 掛川市竹の丸/静岡県掛川市掛川 1200-1/TEL 0537-22-2112
14:00~17:00	公開シンポジウム「東日本大震災から何を学ぶか?:災害と社会情報学」(後援 浜松市) モデレーター:伊藤守(早稲田大学:JSIS 会長)
	報告者:田中幹人(早稲田大学)、中森広道(日本大学)、岩田孝仁(静岡県危機報道監)、平間英博(宮城県亘理郡山元町副町長)、松井くにお(ニフティ(株))、柴田邦臣(大妻女子大学) (敬称略) 情13教室
17:30~19:30	プレカンファレンス「JSIS-BJK 災害情報支援チーム 派遣隊リーダーズトーク」 高柳記念未来技術創造館ホール

9月10日(土) 会場:「静岡大学情報学部」 受付開始 9:00

10:0~12:00	I-1 情報社会論1(デジタルデバйд)	I-2 情報社会論5(理論)	I-3 e-支援システム1	I-4 地域情報1	I-5 企業・産業・経済情報1	I-6 メディア・情報行動1(青少年)	WS2「集合知の社会情報学—社会情報学BOK構築への挑戦」	WS3「被災地・山元町の現状と未来、そしてコミュニティラジオ」	WS6「情報社会における間接規制、共同規制、ゲートキーパー規制」
	DR室	情26教室	情22教室	情23教室	情24教室	情25教室	情11教室	情21教室	情13教室
13:0~15:30	シンポジウム「地域社会の情報ネットワークとガバナンス」 西原純(静岡大学)、河井孝仁(東海大学)、佐藤正之(愛知大学)、野澤浩樹((株)シーポイント) (敬称略)								
	情13教室								
16:0~17:00	特別講演「光技術のグローバルゼーション」								

	晝馬日出男氏 (元浜松ホトニクス常務取締役、現浜松フィルハーモニー理事長)
	情 13 教室
17:0~17:30	JSIS・JASI 表彰式
	情 13 教室
18:0~20:00	懇親会
	生協南会館

自由報告・論題詳細プログラム

○=一般 / ◎=大学院生

第 1 日目 : 9 月 10 日(土) 自由報告部会 I 10:00~12:00

I-1 情報社会論 1 (デジタルデバイド) DR 室

座長 : 岡田勇(創価大) 討論者 : 有馬昌宏(兵庫県立大)

○平和構築を推進するデジタルデバイド解消の研究

○村井 俊雄 (リコーテクノシステムズ株式会社) 関口 義一 (創価大学)

○デジタルデバイド解消がもたらす効果の分析

河島 妃奈子 (専修大学 経営学部) ○森本 祥一 (専修大学経営学部)

◎Global Digital Divide Index 2011: Longitudinal Analysis and Changes in the ICT Leaders Worldwide.◎Kamila Kolpashnikova (東京大学) Tuyara Ediseeva (Institute of Regional Economics)

○視覚障害者の ICT スキル学習支援 : サポート団体に対する予備的調査

○鶴岡 和幸 (広島文化学園大学) 部谷 耕治 (広島文化学園大学) 大藤 文夫 (広島文化学園大学)
栗川 隆宏 (広島文化学園大学) 志摩 徹郎 (広島市視覚障害者情報支援センター)

I-2 情報社会論 5 (理論) 情 26 教室

座長 : 岡田安功(静岡大) 討論者 : 黒須俊夫(国士舘大)

○自主規制のモラルティー表現規制におけるソフトロー

○原田 伸一朗 (静岡大学情報学部)

○セカイ系の世界経験をめぐって

○中尾 健二 (静岡大学)

○ハイパーテキストの能動的レクチュール —編集から情報創造へ

○曾我 千亜紀 (愛知県立芸術大学) 井上 寛雄 (中京女子大学) 山田 庸介 (名古屋大学) 米山 優 (名古屋大学)

○生成としてのサイボーグに関する一考察

○根村 直美 (日本大学経済学部)

I-3 e-支援システム 1(SNS) 情 22 教室

座長 : 岩井淳(群馬大) 討論者 : 野田哲夫(島根大)

○エナジーハーベストを用いた災害時情報通信について

○渡辺尚 (静岡大学創造科学技術大学院) 吉田将也 (静岡大学大学院情報学研究科) 千葉義人 (静岡大学大学院情報学研究科)

○地域 SNS におけるコミュニケーションダイナミクスの分析

○山本仁志 (立正大学) 小川 祐樹 (立正大学) 和崎宏 (関西学院大学) 後藤真太郎 (立正大学)

○災害時における地域 SNS の分析

○小川祐樹 (立正大学) 山本仁志 (立正大学) 和崎宏 (関西学院大学) 後藤真太郎 (立正大学)

◎ソーシャルメディアを活用した地域情報化~茨城県北地域における 3 つの事例より~

◎滝沢 惟 (茨城大学大学院) 高橋 綾香 (茨城大学大学院) 伊藤 慎吾 (茨城大学大学院) 大部 由香

(茨城大学) 米倉 達広 (茨城大学)

I-4 地域情報1 情23 教室

座長：大國充彦(札幌学院大) 討論者：森谷健(群馬大)

- ◎消防活動経験の伝承を可能とする伝承支援SNSの提案
 - ◎大野 光太郎 (電気通信大学) 諏訪 博彦 (電気通信大学) 太田 敏澄 (電気通信大学)
- 地域活性化と地域のつながり
 - 杉野 隆 (国土舘大学) 中根 雅夫 (国土舘大学)
- 自治体における効果的な地域情報化戦略とは
 - 大石哲也 (静岡県庁企画広報部情報政策課)
- ◎「市民自治」の観点からみた公設文化施設研究
 - ◎渡部春佳 (東京大学大学院学際情報学府) 田中秀幸 (東京大学大学院情報学環)

I-5 企業・産業・経済情報1 情24 教室

座長：嶋崎真仁(秋田県立大) 討論者：塚原康博(明治大)

- ◎雑誌『ぴあ』を通じた映画館女性割引の調査研究
 - ◎西尾 明将 (東京大学大学院学際情報学府) 田中 秀幸 (東京大学大学院情報学環)
- M&A発表が社債スプレッドと株価に与える影響について(2011)
 - 上瀧弘晃 (中央三井アセット信託銀行) 山下泰央 (中央三井アセット信託銀行) 高橋大志 (慶應義塾大学大学院経営管理研究科)
- ◎購読雑誌によるライフスタイル分析を用いた広告情報配信の可能性～ファッション雑誌を事例とした考察～
 - ◎上野 亮 (青山学院大学大学院社会情報学研究科) 飯島 泰裕 (青山学院大学大学院社会情報学研究科)
- ◎テレビ電話の普及を妨げる要因
 - ◎藤原 正弘 ((株) KDDI 総研/東京大学大学院学際情報学府)

I-6 メディア・情報行動1 (青少年) 情25 教室

座長：倉掛崇(西日本短期大) 討論者：遠藤薫(学習院大)

- ◎中学生におけるネット依存の実態と要因分析(2011)
 - ◎堀川 裕介 (東京大学大学院学際情報学府) 橋元 良明 (東京大学大学院情報学環) 小室 広左子 (東京国際大学国際関係学部) 小笠原 盛浩 (関西大学社会学部) 大野 志郎 (東京大学大学院学際情報学府) 天野 美穂子 (東京大学大学院学際情報学府) 河井 大介 (東京大学大学院学際情報学府)
- 高校生の携帯電話利用に関する普及時期別の比較分析
 - 毛利康秀 (日本大学文理学部)
- 若者が地域・社会貢献活動に参加しやすい環境構築に向けた実践的な検討
 - 高城芳之 (アクションポート横浜) 服部哲 (神奈川工科大学)
- 父親の子育て参加と通信メディアによる趣味ネットワークの構築
 - 天笠 邦一 (慶應義塾大学 SFC 研究所) 小川 克彦 (慶應義塾大学環境情報学部)

第2日目：9月11日(日) 自由報告部会Ⅱ 9:30～11:30

Ⅱ-1 情報社会論2 (高齢化) DR 室

座長：笹原恵(静岡大) 討論者：安田孝美(名古屋大)

- ◎山村コミュニティにおける情報メディアの受容
 - ◎川又 実 (東京経済大学大学院)
- ◎ICTによる高齢者孤立化防止の試み—モデル構築と社会実験について—

- ◎森 やす子 (お茶の水女子大学) 袖井 孝子 (東京家政学院大学) 荒井 浩道 (駒澤大学) 澤岡 詩野 ((公財) ダイヤ高齢社会研究財団) 鈴木 昭男 ((社) シニア社会学会)
- テレビ電話とコールセンターを利用した中山間地域における高齢者の ICT 利活用と生活支援の可能性

- 賈 馳 (島根大学) 野田 哲夫 (島根大学)
- 超高齢社会における高度情報社会のあるべき姿に関する一考察
山田 志穂 (専修大学 経営学部) ○森本 祥一 (専修大学経営学部)

II-2 情報社会論6 (インターネットの影響) 情14 教室

座長: 原田伸一郎(静岡大) 討論者: 松井修視(関西大)

- ストリートのためのパノラマ画像の撮影と表示手法に関する研究
○西尾 吉男 (金城学院大学現代文化学部) 菅瀬 和弘
- ソーシャルネットワークにおける社会関係資本とブリッジの役割と機能(2011)
○林 相熏 (東京大学大学院学際情報学府)
- インターネットの副作用を考える
○阿部 圭一 (愛知工業大学)

◎The Inter-functional Trend of SNS

- ◎王師冕 (オウ シメン) (早稲田大学大学院国際情報通信研究科)

II-3 e-支援システム2 情22 教室

座長: 森田均(長崎県立大) 討論者: 櫻井成一郎(明治学院大)

- 疎結合によるサステナブル情報基盤の実現
○寺菌淳也 (会津大学) 福原 英之 (ネットワンシステムズ) 鈴木太郎 (会津大学) 宮崎敏明 (会津大学) 岩瀬次郎 (会津大学) 林隆史 (会津大学)
- ◎利用者間のコミュニケーションを目的とした Web-GIS の設計と構築
◎中原 宏樹 (電気通信大学大学院情報システム学研究科) 山本佳世子 (電気通信大学大学院情報システム学研究科)
- ◎ニコニコ動画のログデータを用いた新たな面白い動画の発見に関する研究
◎平澤 真大 (電気通信大学) 小川 祐樹 (立正大学) 諏訪 博彦 (電気通信大学) 太田 敏澄 (電気通信大学)
- ◎ユーザ間関与に基づく Twitter フォロワーユーザ推薦
◎北村 太一 (電気通信大学 大学院情報システム学研究科) 小川 祐樹 (立正大学) 諏訪 博彦 (電気通信大学) 太田 敏澄 (電気通信大学)

II-4 地域情報2 情23 教室

座長: 今田寛典(広島文化学園大) 討論者: 河又貴洋(長崎県立大)

- 地域情報取得行動と地域特性の関係: インターネット利用と地域特性のクロス水準相互作用
○北村 智 (東京経済大学コミュニケーション学部)
- 地域ぐるみで行うキャリア教育の展開と課題~東京大田区の中学校の事例をもとに
田中宏和 (静岡大学) ○臼木 悦生 (静岡大学)
- 郊外社会におけるライフスタイル選好と情報環境の活用~羽村市の場合~
○天野 徹 (明星大学)

II-5 企業・産業・経済情報2 情24 教室

座長: 富山慶典(群馬大) 討論者: 福田豊(電気通信大)

- ◎動的不均衡モデルとミクロ的基礎
◎村館 靖之 (東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻)
- マクロ統計によるわが国の産業技術構造の推計について

- 榎俊吾 (東京工科大学メディア学部)
- ◎景況感の推移における予測値と観測値、および業績値の連関に関する探索的解析
 - ◎那須田 悠貴 (静岡大学大学院情報学研究科) 山田 文康 (静岡大学大学院情報学研究科)
- A Preliminary Report on A Challenge to Compute Real-time Consumer Price Index in the Framework of Cyber Physical Systems (CPS) Using Large-scale Online Household Record Data
 - Yumiko Kinoshita (東京大学大学院情報学環学際情報学府) Reiko Gotoh Osamu Sudoh (東京大学大学院情報学環学際情報学府)

II-6 メディア・情報行動2 (SNS) 情 25 教室

座長：森谷健(群馬大) 討論者：佐藤佳弘(武蔵野大)

- ◎SNS 依存と SNS 利用実態とその影響
 - ◎河井 大介 (東京大学大学院学際情報学府) 天野 美穂子 (東京大学大学院学際情報学府) 小笠原盛浩 (関西大学社会学部) 橋元 良明 (東京大学大学院情報学環) 小室 広佐子 (東京国際大学国際関係学部) 大野 志郎 (東京大学大学院学際情報学府) 堀川 裕介 (東京大学大学院学際情報学府)
- ソーシャル・ネットワークキング・サービスの快適なコミュニケーションの裏に潜む依存症とトラブルの危険性(2011)
 - 花塚 千恵美 (武蔵野大学)
- SNS 分析の基礎視角—ゴフマンのパースペクティブから
 - 木村 雅史 (東北大学)
- 地域ソーシャルサイトの意義と課題
 - 河井孝仁 (東海大学)

第2日目：9月11日(日) 自由報告部会Ⅲ 14:00~16:00

III-1 情報社会論3 (セキュリティ) DR 室

座長：島田達巳(情報セキュリティ大) 討論者：田中秀幸(東京大)

- ◎米国の安全保障情報管理政策に関する一考察—秘密指定情報制度を中心に—
 - ◎平松 純一 (拓殖大学大学院国際協力学研究科安全保障専攻)
- 情報セキュリティの規範性
 - 岡田安功 (静岡大学)
- 情報セキュリティ攻撃・防御戦略の動的意思決定モデル
 - 鈴木 亜矢子 (KDDI 株式会社) ○佐藤 直 (情報セキュリティ大学院大学) 渡邊 均 (東京理科大学)
- ◎情報セキュリティ内部不正行動のモデル化の試み(2011)
 - ◎川又祥正 (情報セキュリティ大学院大学) 廣松毅 (情報セキュリティ大学院大学)

III-2 (災害時の) 情報の共有・地域情報1 情 14 教室

座長：田中淳(東大) 討論者：吉井博明(東京経済大)

- 大規模災害に対する地方自治体の情報システムの役割 (2011)
 - 吉田 博一 (摂南大学)
- ◎東日本大震災に見る効果的な情報共有方法の調査
 - ◎伊藤 慎吾 (茨城大学大学院) 滝沢 惟 (茨城大学大学院) 大部 由香 (茨城大学) 米倉 達広 (茨城大学)
- 福島第一原子力発電所事故による放射能汚染情報に関する避難者の意識調査
 - 小田光康 (早稲田大学大学院政治学研究科)

III-3 e-支援システム3 情 22 教室

座長：西尾吉男(金城学院大) 討論者：佐渡一広(群馬大)

- ◎日本における電子処方箋のあり方とそのインパクトに関する研究

- ◎林 新（電気通信大学）福田 豊（電気通信大学）
- Medical social informatics methods for neurosurgical information systems: Study of human computer interface of traumatic brain injury
 - Agung Budi Sutiono（電気通信大学）Hirohiko Suwa（電気通信大学）Toshizumi Ohta（電気通信大学）Muh Zafrullah Arifin（Department of Neurosurgery Padjadjaran University-Hasan Sadikin Hospital）
- Interface Settings and the Improvement Proposal of the Astronomy News Integrated System for the Museum Curator
 - 陳玉鈴（名古屋大学）浦田真由（日本学術振興会特別研究員 PD）毛利 勝廣（名古屋市科学館）安田孝美（名古屋大学）
- ◎暗号危殆化に対する HTTPS 暗号可視化手法の提案
 - ◎高野 誠士（電気通信大学）関 良明（NTT 情報流通プラットフォーム研究所）諏訪 博彦（電気通信大学）

III-4 地域情報3 情23 教室

座長：炭谷晃男(大妻女子大) 討論者：牧瀬稔(地域開発研)

- プロジェクト学習を通じた地域ポータルサイトの運営に向けた取り組み
 - 林 康弘（千歳科学技術大学）小松川 浩（千歳科学技術大学）
- ◎遺伝的アルゴリズムを用いた観光地の施設配置の評価方法の提案
 - ◎井上美佳（電気通信大学大学院情報システム学研究所）山本佳世子（電気通信大学大学院情報システム学研究所）
- 市民主体による地域サイトの構築と継続的な運営に関する研究
 - 浦田 真由（名古屋大学大学院）後藤 昌人（金城学院大学）安田 孝美（名古屋大学大学院）

III-5 企業・産業・経済情報3 情24 教室

座長：五藤寿樹(日本橋学館大) 討論者：榊俊吾(東京工科大)

- オープンソース・ソフトウェアと情報サービス産業の生産性
 - 谷花 佳介（島根大学）野田 哲夫（島根大学）
- 日本のレコード産業に見る技術革新と構造変化に関する研究
 - 加藤 綾子（東京大学大学院情報学環）
- 世界金融危機における情報化のパラドックス
 - 河又貴洋（長崎県立大学シーボルト校国際情報学部）
- ◎モバイルサービスにおけるネットワーク効果と会苦システム—韓国モバイルインターネット活性化政策を事例に—
 - ◎趙章恩（東京大学大学院学際情報学府）須藤修（東京大学大学院情報学環）

III-6 メディア・情報行動3（心理） 情25 教室

座長：小笠原盛浩(関西大) 討論者：橋元良明(東京大)

- ◎ネット上での利他的な情報発信が社会的スキルと QOL に与える影響
 - ◎乾 貴史（創価大学大学院工学研究科）大木 慎（創価大学大学院工学研究科）坂部 創一（創価大学大学院工学研究科）
- ◎インターネット上の対人交流が孤独感と QOL に与える影響
 - ◎大木 慎（創価大学大学院工学研究科）乾 貴史（創価大学大学院工学研究科）坂部 創一（創価大学大学院工学研究科）
- 大人のネットいじめに対する対策の現状と課題
 - 安達 早苗（専修大学 経営学部）○森本 祥一（専修大学経営学部）

第2日目：9月11日(日) 自由報告部会Ⅳ 16:10～18:10

Ⅳ-1 情報社会論4(海外動向, 国際化) DR室

座長：浅間正通(静岡大) 討論者：正村俊之(東北大)

◎中国社会における「人肉捜索」の現状と諸問題

◎高 広強(静岡大学大学院情報学研究科)

◎リアリティTVの中国における受容と展開

◎李 璐(静岡大学大学院情報学研究科)

◎台湾における情報通信分野の独立規制機関をめぐる考察

◎王慧萍(東京大学大学院学際情報学府)

◎東日本大震災発生後のインターネットを介した中国への情報伝播について

◎西本志乃(広島大学大学院)

Ⅳ-2 (災害時の)情報の共有・地域情報2 情14教室

座長：関谷直也(東洋大) 討論者：岩田孝仁(静岡県庁)

◎被災者支援に見る被災者と支援者と仲介者の関係

◎辻 和孝(茨城大学大学院) 河野 義広(東京情報大学) 大部 由香(茨城大学) 米倉 達広(茨城大学)

◎災害時ボランティア情報の流通におけるインターネット活用ー東日本大震災から考える

◎藤代 裕之(NTT レゾナント株式会社)

◎Social mediaによる情報発信・情報共有と世論形成

◎田中 雅子(東京電機大学情報環境学部) 高倉 美沙(東京電機大学)

Ⅳ-3 情報の管理 情22教室

座長：北村順生(新潟大) 討論者：太田敏济(電通大)

◎SDデータに対する「不良回答」識別のための新たな手順の提案

◎早川 敬一((株)計画研究所) 高嶺 一男((株)計画研究所) 杜 勝男(静岡大学大学院) 山田 文康(静岡大学大学院)

◎SDデータに対する「不良回答」識別方法の一般的質問項目への拡張

◎山田 文康(静岡大学大学院) 杜 勝男(静岡大学大学院) 関口 茉莉((株)ミウラクリエイト) 早川 敬一((株)計画研究所) 高嶺 一男((株)計画研究所)

◎個人情報漏洩を入力値分析を用いて防ぐ調査システム的设计

◎岩井 淳(群馬大学社会情報学部情報行動学科)

◎標準フォーマット策定のためのマニフェストデータの構造化に関する研究

堀由希恵(静岡大学情報学部) ◎佐藤哲也(静岡大学情報学部准教授)

Ⅳ-4 電子自治体 情23教室

座長：河井孝仁(東海大) 討論者：新川達郎(同志社大)

◎eLTAxを用いたオンライン利用手続の実態調査

◎横山 正人(長崎総合科学大学環境・建築学部)

◎京都府共同利用型業務支援システムにおける業務標準化の課題～総務省自治体クラウド開発実証事業から～

◎青木 和人(宇治市役所) 深田 秀美(小樽商科大学)

◎基礎自治体の公式ウェブサイトにおける外国人向け観光紹介ページの現状と評価

◎佟 楊(フローバル株式会社) 有馬 典孝(兵庫県立大学) ◎有馬 昌宏(兵庫県立大学)

◎合併自治体における職員の情報交換の実態とITの活用ー静岡県磐田市の事例ー

◎西原 純(静岡大学情報学部) 篠田靖子(デンソーITソリューションズ)

IV-5 情報政策 情 24 教室

座長：櫻井成一郎(明治学院大) 討論者：吉田 純(京大)

◎イギリスの情報公開法と電子政府政策

◎本田正美 (東京大学大学院学際情報学府)

◎中小企業の企業間連携におけるプラットフォームの実証研究

◎赤穂 満 (電気通信大学大学院情報システム学研究科) 福田 豊

IV-6 メディア・情報行動4 (受容) 情 25 教室

座長：辻泉(中央大) 討論者：伊藤賢一(群馬大)

○対面時の「ケータイのディスプレイを見る行為」に対する許容と非許容との関連について

○中村隆志 (新潟大学人文学部)

○テキスト系 CGM 利用時の不安に関する自由記述を中心とした調査結果について

○山本太郎 (NTT) 千葉 直子 (NTT) 植田 広樹 (NTT) 高橋 克巳 (NTT) 平田 真一 (NTT)

小笠原 盛浩 (関西大) 関谷 直也 (東洋大) 中村 功 (東洋大) 橋元 良明 (東大)

◎在日コリアンの韓国ドラマ視聴と民族アイデンティティに関する探索的考察

◎金 ミンジ (名古屋大学)

大会委員

合同研究大会企画委員

企画委員長 伊藤 守(早大)

JSIS

伊藤 守 (早大) 遠藤 薫 (学習院大) 安田孝美 (名古屋大) 藤井史朗 (静岡大)

正村俊之 (東北大) 大國充彦 (札幌学院大) 岡田安功 (静岡大) 吉田 寛 (静岡大)

服部 哲 (神奈川工科大) 佐藤哲也 (静岡大)

JASI

廣松 毅 (情報セキュリティ大) 遠藤 薫 (学習院大) 田中秀幸 (東京大)

櫻井成一郎 (明治学院大) 五藤寿樹 (日本橋大) 太田敏澄 (電通大)

山本佳世子 (電通大) 岡田 勇 (創価大) 佐藤哲也 (静岡大) 田中宏和 (静岡大)

和泉 潤 (名古屋産業大) 岩井 淳 (群馬大) 須藤 修 (東京大)

大会実行委員会

実行委員長 藤井史朗 (静岡大学：JSIS)

実行委員 伊藤 守 (早大：JSIS) 廣松 毅 (情報セキュリティ大：JASI)

岡田安功 (静岡大学：JSIS) 田中宏和 (静岡大学：JSIS)

佐藤哲也 (静岡大学：JASI) 西原 純 (静岡大学：JSIS)

原田伸一郎 (静岡大学：JSIS) 田中宏和 (静岡大：JASI)

和泉 潤 (名古屋産業大：JASI)

参加者等

・大会参加者数合計 314 人

JSIS 90 人、JASI 85 人

非会員参加者数 122 人

招待者 17 名(特別講演、シンポジウム、ワークショップなどの非会員登壇者等)

会員の一般・学生別 (JSIS 一般 76 人、学生 14 人)

(JASI 一般 65 人、学生 20 人)

非会員の当日参加者 (大会参加費支払い者 一般 20 人、学生 30 人)

(学生などシンポ参加者 会費なし 47 人)

掛川でのワークショップ参加者(会員 9 人、非会員 35 人)

・懇親会参加者 84 人(JSIS 26 人、JASI 43 人、非会員 15 人)

会員の一般・学生別 (JSIS 一般 26 人、学生 0 人)

(JASI 一般 34 人、学生 9 人)

非会員の当日参加者 (一般 5 人、学生 10 人)

会計報告

負担比率

JSIS 参加者 90 名、JASI 参加者 85 名(両学会所属会員についてはほぼ均等に分ける)より、負担比率を下記のとおりとする。

JSIS 負担率 51.4%

JASI 負担率 48.6%

収入	金額(円)
静岡大学学会等開催支援経費	300,000
静岡大学工学振興基金	100,000
(株)ジェイエスキューブ広告掲載料	100,000
参加費	1,090,000
JSIS 会員参加費	429,000
事前申込	235,000
当日申込	194,000
JASI 会員参加費	382,000
事前申込	285,500
当日申込	96,500
一般会員当日参加費	221,000
プレカンファレンス参加費	58,000
懇親会費	382,000
JSIS 会員懇親会費	130,000
事前申込	90,000
当日申込	40,000
JASI 会員懇親会費	177,000
事前申込	137,000
当日申込	40,000
一般会員懇親会費	75,000
収入合計	1,972,000

支出	金額(円)
施設使用料	69,769
論文集印刷費	599,400
講師謝金・交通費	254,240
特別講演(晝馬日出男)	20,000
シンポジウム(岩田孝仁)	14,600
シンポジウム(高橋厚)	38,320
シンポジウム(星和人)	38,320
シンポジウム(佐藤正之)	12,300
シンポジウム(平間英博)	67,160
シンポジウム(野澤浩樹)	10,000
シンポジウム(松井くにお)	26,140

シンポジウム(田中幹人)	27,400
アルバイト代	391,398
昼食代(両学会理事会弁当)	39,300
消耗品費他	124,649
懇親会費	310,920
テープ起こし謝金	39,000
DVD 焼き増し謝金	30,000
収差剰余金	113,324
JSIS 還元金	58,249
JASI 還元金	55,075
支出合計	1,972,000

(大会ホームページ開設)

大会実行委員会による学会大会ホームページを開設した。
主な内容は以下の通りである。

URL : http://tai.ia.inf.shizuoka.ac.jp/jsis_jasi_2011/

- ・大会概要
- ・会場アクセス
- ・関連リンク
- ・学会関係リンク
- ・大学関係リンク
- ・交通関係リンク
- ・大会後援・支援について

大会開催補助金

今大会の開催に当たり、静岡大学より、「学会等開催経費」、「工学振興基金」の支援を受けた。本制度の概要は以下の通りである。

- ・平成 23 年度教育研究プロジェクト推進経費「学会等開催支援経費」(静岡大学)

1. 趣旨・目的

本学(静岡大学)の研究水準を向上するためには、研究成果や学術情報の公開を積極的に推進することが重要である。そのため、本学が主催又は共同で開催する学会等の開催経費の一部を支援する。

2. 対象

支援する学会等は、以下のとおりとする。

- (1) 概ねの目安として、300 人程度以上が参加する学会等(国際学会(会議)及び全国規模の学会等)
- (2) 下記 3 に準じた本学が主催、共同で主催するもの。
- (3) 本学の教員が会議実行組織の組織委員長等の重要な位置を占めていること。
- (4) 原則、本学の共催、後援等名義の使用許可を受けるものであること。(予定も含む。)
- (5) 静岡県内で開催されるものであること。
- (6) 平成 23 年 8 月から平成 24 年 3 月末日の間に開催されるもの。

3. 主催及び共同主催の定義

(1) 主催

- ・大学主催

本学が独自に企画・立案し、主催するもの。

- ・受入主催

本学の教職員が加盟する団体の決議・依頼等により本学が主催するもの

(2) 共同主催

- ・他の団体と共同で企画・立案し、共同で主催するもの
- ・本学の教職員が加盟する団体から決議・依頼等により他の団体と共同で主催するもの
- ・交流協定校と共同で主催するもの

4. 支援上限額及び経費

1件当たり上限 300 千円とする。ただし、謝金、レセプション費は対象としない。

- ・工学振興基金事業(静岡大学(浜松キャンパス))

「学术交流経費援助」

浜松キャンパスの部局に所属する常勤教職員に対し、学术交流のための経費を助成する。

希望する事業が2つの年度にまたがる場合は、前年度に助成する。

なお、教職員及び学生についての旅費・学生の国際学会参加登録費が支給限度額を超える場合は、教員の寄付金より充当することができる。

◎ 対象となる事業

- (1) 講演者・研究者の受入旅費等これに係るその他の経費
- (2) 学生の学会発表のための旅費補助
- (3) 学生の国際学会（国内開催も含む）参加登録費補助
- (4) 国際学术交流にかかる経費補助

(懇親会について)

懇親会は、大学構内の生協南会館にて実施した。事前申し込みは 53 名、実際の参加者は 84 名であった。

(大会発表論文集印刷について)

大会発表論文集の印刷は、昨年、一昨年の経費を参考に、2社に見積もりをお願いしたうえで、地元の「シバプリント」にお願いした。予算的には、一昨年よりは10万ほど高く、昨年よりは10万ほど安く、発行部数や入稿の便宜などを鑑みると、ほぼ適当であったと思われる。

(USTREAM の配信について)

今回の大会では、特別講演と2つのシンポジウムを USTREAM により、配信し、記録した。静岡大学の杉山岳弘准教授の研究室の支援を受け、費用的にもかなり安価に実施できた。

(参加者アンケート)

大会参加者アンケートの結果は以下の通りである。

【回答者数：14名】

1. 今回の大会で印象に残ったプログラムはどれですか（複数回答可—○印を）。
 - 1) 特別講演（10日 晝馬日出男氏「光技術のグローバルゼーション」） 4
 - 2) 公開シンポジウム（9日、テーマ：「東日本大震災から何を学ぶか」） 3
 - 3) シンポジウム（10日、テーマ「地域社会の情報ネットワークとガバナンス」） 6
 - 4) プレカンファレンス（9日、「JSIS-BJK 災害情報支援チーム 派遣隊リーダーズトーク」） 1
 - 5) WS1：「社会シミュレーション ～ モデルの粒度と現象の接合を探る」 1
 - 6) WS2：「集合知の社会情報学—社会情報学 BOK 構築への挑戦」
 - 7) WS3：「被災地・山元町の現状と未来、そしてコミュニティラジオ」 2
 - 8) WS4：「街の思い出サルベージアルバム・オンライン」 2
 - 9) WS5：「参加を実感できるまちづくり：オープンな情報共有と地域ガバナンス」 1
 - 10) WS6：「情報社会における間接規制、共同規制、ゲートキーパー規制」
 - 11) WS7：「モバイル・インターネット時代における青少年の育成環境」
 - 12) 自由報告部会（よろしければ、セッション名、内容などを挙げてください） 2
 - ()
 - 13) その他（具体的に：)
 - 14) 特になかった

2. 全体として、今回の大会はいかがでしたか(1つに○)。
- | | | | |
|-----------|---|-----------|---|
| 1) 大変よかった | 6 | 2) よかった | 3 |
| 3) ふつう | 5 | 4) よくなかった | |
3. 今回の大会をどうやってお知りになりましたか(複数回答可)。
- | | | | |
|---------------|---|----------------|---|
| 1) 所属学会からの案内で | 8 | 2) 大会ウェブサイトを見て | 2 |
| 3) ポスターを見て | | 4) 知人からの紹介で | 2 |
| 5) その他(具体的に: | |) | |
4. 今回の大会についてのご意見を自由にお書きください。
- ・晝馬氏の後援を受けたシンポが開催されるとよかった。またいつものことであるが、ききたい発表が重なって残念に思うことがあった。
 - ・会場運営が良かった。自由報告の中に水準が高く、大変興味のあるものがいくつもあった。
 - ・学会の若い世代の活動に目を見張るものがあり、柴田チームの地域とボランティアをつなぎ、研究に反映されておられ素晴らしかった。
 - ・地元静岡からの積極的な発信があったのが良かった。
 - ・暑かったです。
 - ・会場案内がややわかりにくい。
 - ・内容が多すぎると思います。学会の性質上仕方ないと思いますが、もう少し内容を絞っても良いのではないのでしょうか。
 - ・時間の制約があるので十分に意見を聞けないのが残念。
 - ・シンポジウム(10日)、特別講演に自由報告部会の発表者の参加が少なすぎた。しかも表彰の時には入場してきている。視野の狭さに不安を抱く。
5. 次回の大会についてのご意見・ご要望などがあればお書きください。
- ・毎年同じ頃、市民メディア全国交流集会在開催され、何度か来ることができませんでした。参加者がかなり重複するよう感じましたため、これから重ならないといいなと思いました。今年は9/24仙台で、来年は新潟で日程未定。お知らせするようにします。でも開催校の都合が一番大切です。
 - ・運営スタッフ(受付、タイムキーパーなど)の質的向上をお願いします。今日の25教室のタイムキーパーは予鈴時間を間違える等段取りが最悪でした。
 - ・負担金の軽減をお願いします。会費+大会で年間15,000円以上かかるのは高いと思います。
 - ・東北で。
6. 最後にご所属・ご職業をお知らせください(1つに○)。
- | | | | | | | |
|--------------|---|--------------|--------------|---|--------------|---|
| 1) JSIS 一般会員 | 5 | 2) JSIS 学生会員 | 3) JASI 一般会員 | 4 | 4) JASI 学生会員 | 1 |
| 5) 非会員大学院生 | 2 | 6) 非会員学部学生 | 7) 非会員(学生以外) | 2 | | |

研究発表賞の選考について

2011年9月11日、18時30分より、下記の選考委員メンバーにより、本大会での研究発表賞を専攻した。

・選考委員(敬称略)

JSIS 黒須俊夫・柴田邦臣・服部哲

JASI 廣松毅・五藤久樹・櫻井成一郎

・研究発表賞

JSIS

・曾我千亜紀(愛知県立芸術大学一非常勤・院生) 情報社会論 6

「ハイパーテキストの能動的レクチュール—編集から情報創造へ—」

・那須田悠貴(静岡大学大学院情報学研究科) 企業・産業・経済情報 2

「景況感の推移における予測値と観測値、および業績値の連関に関する探究的解析」

JASI

・趙章恩(東京大学大学院) 企業・産業・経済情報 3

「モバイルサービスにおけるネットワーク効果と会苦システム—韓国モバイルインターネット活性化政策を事例に一」

・森やす子(お茶の水女子大学) 情報社会論 2(高齢化)

「ICTによる高齢者孤立化防止の試み—モデル構築と社会実験について—」

【日本社会情報学会 平成23年度学会賞】

＜平成23年9月10日 表彰＞

☆日本社会情報学会 社会情報システム貢献賞（団体）

特定非営利活動法人ASP・SaaS・クラウド・コンソーシアム(代表者 会長 河合 輝欣)
〔表彰事由〕

ASPICは、1999年の設立以来、地方公共団体、医療・介護、教育等の公共的、社会的な分野におけるASP・SaaS・クラウドサービスの利用に対する普及・促進活動を行ってきた。種々の普及・促進活動の中でも、以下に記す「ガイドラインの作成支援活動」と「安全・信頼性に係る情報開示認定制度の推進」は特筆され、社会情報システム貢献賞に値するものと認められる。

I. ガイドラインの作成支援活動

公共的、社会的な分野のIT化を推進するため、ASP・SaaS・クラウドのサービスを円滑に導入できるよう、総務省が推進するASP・SaaS事業者及び利用者向けのガイドラインの作成に対し、当ASPICは多大な作成支援を行い、次のような成果を上げ、公共的、社会的なIT化の推進に寄与した。

① 分野共通的なガイドラインの作成支援

- ・ASP・SaaSの安全信頼性に係る情報開示指針の作成支援。
- ・ASP・SaaSにおける情報セキュリティ対策ガイドラインの作成支援。
- ・データセンターの安全信頼性に係る情報開示指針の作成支援。

② 地方公共団体関連

- ・公共ITにおけるアウトソーシングに関するガイドラインの作成支援。
- ・地方公共団体におけるASP・SaaS導入活用ガイドラインの作成支援。

③ 医療・介護関連

- ・ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドラインの作成支援。

④ 教育関連

- ・公務分野におけるASP・SaaS事業者向けガイドラインの作成支援。

II. 安全・信頼性に係る情報開示認定制度の推進

ASP・SaaS安全・信頼性に係る情報認定制度（マルチメディア振興センター）の推進を図り、ASP・SaaS利用者が安心して最適なサービスの選択ができる環境の整備に努めた。

これにより、地方公共団体におけるASP・SaaS導入活用ガイドラインでは、認定取得サービスの導入を推奨することとなり、同制度の定着がなお一層進んだ。

☆日本社会情報学会 社会情報システム貢献賞（団体）

北九州市（代表者 市長 北橋 健治）

〔表彰事由〕

北九州市では、平成18年度に5年計画の「業務の効率化と情報システムの再編基本計画」を策定し、業務及び業務システム間の連携に主眼を置き、組織体制・業務手順の見直しを含め、全体最適の視点から、行政組織及びその業務を支援する情報システムの「あるべき姿」の実現を目指してきた。その結果、計画目標年次である平成23年度において、政令指定都市で20近い区役所・出張所を含む大規模な組織であるにも関わらず、大胆な改革を行って業務の効率化と情報システムの再編の実現に成功している。

具体的には、区役所・出張所窓口でのワンストップサービス導入とそのための業務・組織改革、ならびに行政内部事務の効率化を目的に情報システムの再編を行っている。実現の手段には北九州市独自の特徴があり、ハードウェア及び共通ソフトウェアからなるシステム基盤と業務アプリケーションを完全に分離し、システム基盤には地域情報プラットフォームの仕様を取り込み、将来の自治体間・官民間のデータ連携を担保するシステムを構築するとともに、ブレードサーバを導入し、仮想化技術を全面適用することで、最小コストと最大効果を創出する全体最適を実現している。

その結果、統合・仮想化でサーバ台数・スペースは1/5に削減されて管理が統合され、印刷用のプレプリント帳票の在庫削減や外注印刷費の大幅な削減を達成し、総額では、再構築前の年額約12.8億円の情報システム費用のうちの約2.5億円の削減に成功して、大幅な削減効果を生み出している。これらの北九州市の5年間の取り組みの過程とその成果は、多くのメディアで取り上げられるとともに、自治体を対象とするシンポジウムやセミナーなどでも紹介されて1700余の地方自治体の範となっており、わが国が目指す電子政府・電子自治体の推進に向けてのトップランナーあるいはリーディング自治体としての貢献は大である。

以上から、北九州市が取り組んできた業務効率化と情報システム再編は高く評価され、社会情報システム貢献賞に値するものと認められる。

☆日本社会情報学会 社会情報システム貢献賞（団体）

文京区（代表者 区長 成澤 廣修）

〔表彰事由〕

文京区では、ホームページをリニューアルするにあたり、サイト内検索をどうすべきかが問題となっていた。それまではGoogleの検索エンジンを使っていたが、Googleの検索結果はページ数が大量でありそこから必要とするページを探し出すのが大変、アクセスする住民は情報リテラシーの低い一般人でありGoogleの機能を使いこなせない、携帯電話で検索するケースに対応できないなどの問題があがっていた。

そこで、身近な言葉や自然言語を使っても検索ができ、検索する適切な言葉を思い浮かなくても周辺の言葉を入力すればキーワード候補として適切な言葉を案内してくれる、携帯電話を使った検索にも適切に対応できるといった機能を持つ都内のベンチャー企業が開発した検索エンジンを採用し、上記の問題を解決することに成功した。

また、機能面だけでなく、自治体として地域経済を活性化するためには小さい企業のニッチな技術を採用するというリスクを積極的にとり、社会的な課題解決に役立てることが自治体の使命であると考えて実行している。

具体的には、下記の理由により社会情報システムとして顕著な貢献をしたことから、表彰委員会で表彰に値することが承認された。

1. ITリテラシーが低い住民でも、簡単に必要とするページを探し出すことができるというコンセプトを実現したこと。

通常の検索システムであると、合致したキーワードを含む大量のページが表示され、ITリテラシーの低い者にとっては絞り込みに苦労する。この検索エンジンは一般住民が利用することを前提に、必要ページを簡単に探せるというコンセプトで設計している。

2. 優しい入力方法と絞り込み方法の多彩な機能

「小学校の新入学手続きについて知りたい」または「小学校 新入学手続き」のように単語あるいは自然言語の検索機能を持っている。また、入力した単語を含む語句を表示し、最も近いと思われるページを検索結果として表示する機能、候補が多い場合は、絞り込みに有効なキーワードを表示して、絞り込みのガイダンスを行う機能を持っている。

上記2つの機能的な評価については、実際に評価委員が文京区のホームページの検索エンジンを使って検証を行い、評価に値すると認められた。

3. ベンチャー企業の活用

この検索エンジンは都内のベンチャー企業が開発したエンジンであり、ベンチャー企業の技術を積極的に活用していることで、地域産業振興にも貢献している。

☆日本社会情報学会 秋山賞

神戸 雅一（電気通信大学）

論文標題

「知識経営における知識流通システムに関する研究」

☆日本社会情報学会 優秀文献賞

塚原 康博（明治大学）

文献表題

「医師と患者の情報コミュニケーション－患者満足度の実証分析－」（薬事日報社）

☆日本社会情報学会 論文奨励賞

柴田 雅雄（創価大学）

論文表題

「良書の読書と情報系大学生との関係性の研究（日本社会情報学会学会誌第22巻－1）」

☆日本社会情報学会 大学院学位論文賞（博士論文・論文賞）

神戸 雅一（電気通信大学）

論文標題

「知識経営における知識流通システムに関する研究」

☆日本社会情報学会 大学院学位論文賞（博士論文・論文奨励賞）

小川 祐樹（電気通信大学）

論文標題

「情報共有を基盤とするソーシャルメディアサイトの活性化に関する研究

－Q&Aサイトの報酬制度設計とNovelty向上のための推薦手法の提案－」

☆日本社会情報学会 大学院学位論文賞（博士論文・論文奨励賞）

Andri Qiantori（電気通信大学）

論文標題

「Adoption of Information and Communication Technology in Indonesia: Focusing on Emergency Medical Communication Systems and Mobile TV Acceptance」

☆日本社会情報学会 大学院学位論文賞（修士論文・論文賞）

佐藤 弘樹（電気通信大学）

論文標題

「事業所間での温室効果ガス排出量取引の評価方法に関する研究」

☆日本社会情報学会 大学院学位論文賞（修士論文・論文賞）

中田 雄介（東京大学）

論文標題

「インターネットを利用した情報収集と学習～消極的な代替から積極的な代替へ～」

☆日本社会情報学会 大学院学位論文賞（修士論文・論文奨励賞）

柳澤 剣（電気通信大学）

論文標題

「地域知の蓄積を目的としたWeb-GIS構築に関する研究」

☆第 18 回社会情報システム学シンポジウム（第 132 回定例研究会）開催報告☆

社会シミュレーションと人間行動研究部会 主査 太田敏澄（電気通信大学）
幹事 諏訪博彦（電気通信大学）

日本社会情報学会（JASI）「社会シミュレーションと人間行動」研究部会では、第 18 回社会情報システム学シンポジウム（第 132 回定例研究会）を、社会情報システム学研究会の主催、経営情報学会（JASMIN）「社会情報と情報ネットワーク」研究部会、電気通信大学 Social Informatics（社会情報学）研究ステーションとの共催にて、2012 年 1 月 26 日（木）に電気通信大学情報システム学研究科棟にて開催致しました。

このシンポジウムは、将来の社会情報システムのシナリオを描くべく、人文・社会科学的情報概念と自然科学的情報概念の統合を企図し、高度でかつ幅広い議論ができますことを願って開催致しております。お陰様をもちまして、71 名の方々のご参加を戴き、盛会のうちに開催することができましたことに、深く感謝致しております。

来年同時期には、第 19 回のシンポジウムを企画する予定に致しておりますので、ご研究発表をはじめ、ご関心のある多数の方々のご参加をお願い申し上げます。

第 18 回のシンポジウムでは、「社会シミュレーション」をテーマとして掲げるとともに、前回に引き続いて、オーガナイズド・セッション「社会シミュレーション」を設けました。このシンポジウムでは、テーマをめぐる活発な議論が行われました。

また、特別講演として、「シミュレーション社会学は絶滅するか繁栄するか？」（中井豊氏、芝浦工業大学教授）のご講演を戴きました。また、オーガナイズドセッションでは、社会シミュレーション「多様な学問領域における社会シミュレーションの現在」のテーマのもと、招待講演として、「経済学におけるシミュレーション研究の課題」（小野崎保、立正大学教授）と題したご講演を、「社会の本質を捉えるための社会シミュレーション」（中丸麻由子、東京工業大学准教授）と題したご講演を戴くことができました。これらのご講演は、今後この領域の研究を展開する上で大変有意義なご論考と拝聴しました。

さらに、公募による一般セッション講演では、22 件のご研究発表がありました。一般セッションでのご講演は、

- [1] 社会シミュレーション [2] 企業経営と信頼 [3] 社会情報システムの新たな課題
[4] ソーシャルメディア [5] 経営活動の分析と改善 [6] 消費者行動と社会調査

の 6 つのセッションにより行われました。

いずれのご講演も、時代の要請にもとづいた概念的、理論的ないし方策的なご研究の成果を披瀝して戴いたご講演であり、この領域の研究がますます盛んになることを確信することができました。

なお、一般セッションでのご講演の題目につきましては、社会情報システム学研究会のホームページ <http://www.ohta.is.uec.ac.jp/ISS/> に、これまでの回のご講演題目を含めて掲載致しておりますので、ご覧戴けますよう宜しくお願い致します。また、学術講演論文集に掲載された論文の抄録は、独立行政法人科学技術振興機構のデータベース（JDream II の JSTPlus）に登録しておりますので、ご参照下さい。

また、学術講演論文集（ISSN：1882-9473）に余裕がございますので、ご希望の方に、実費 ¥1,000 にて頒布致します。お申し込みは、第 18 回社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集購入ご希望の旨、ご送付先住所、お名前、tel または fax 番号を添え、e-mail: ohta@is.uec.ac.jp または fax: 042-443-5660 太田敏澄宛に、お願い致します。代金につきましては、郵便振込口座番号 00150-2-539320 社会情報システム学研究会宛に、学術講演論文集到着後、お振り込み下さいますようお願い致します。

部数に限りがございますので、先着順にてご容赦下さい。

<お問い合わせ先> 社会情報システム学研究会事務局 研究会代表 太田敏澄
FAX&TEL: 042-443-5660, e-mail: ohta@is.uec.ac.jp
電気通信大学 大学院情報システム学研究科 社会知能情報学専攻
社会情報システム学講座 URL: <http://www.ohta.is.uec.ac.jp/>

☆ 編集後記 ☆

日本社会情報学会は3月31日会員総会にて解散し、清算団体となります。
会員の皆様方にはこれまで長きにわたり、ご協力いただきましたことを深く感謝申し上げます。

本学会解散後は2月28日設立一般社団法人社会情報学会へ移行いたします。
連絡先は以下のとおりです。

引き続き、ご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人社会情報学会

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17 三鷹ビジネスパーク SOHO プラザ A-301

電話/FAX 0422-54-4633

Email office@ssi.or.jp

URL <http://www.ssi.or.jp/>